

校内研究4つの取組の5点セット

学級経営5点セット

校内研究 テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標	豊かなコミュニケーション活動の土台を育む人間関係の醸成
達成指標	(1)「自己・他者肯定感テスト」において、「自己・他者肯定群」に位置する児童が全体の82%以上
重点的取組	(1) 4つの取組みのブラッシュアップ及び相互に関連付けた取組み ①フリートーク ②ほめ言葉のシャワー ③成長ノート ④価値語
取組指標	<p>(1) 4月の研修で、4つの取組を相互に関連付ける取組みについて、昨年度までの取組み例を伝え合ったり、課題を確認したりして、今年度の取組み方について共通理解する。8月の研修で、学年ごとに7月までの成果と課題をまとめ、後期に向けてブラッシュアップする。</p> <p>①4月にフリートーク公開・事後研を行い、フリートークのねらいや取組み方について、共通理解をする。学年内で児童が互いにフリートークを見合い、ブラッシュアップさせていく。前期後期に各1回ずつ、研修にて各学級の取組について振り返り、改善していく。</p> <p>②ほめ言葉のシャワーについて、4月の研修でねらいや取組み方について共通理解し、6月以降に実施していく。取組み方を工夫し、年間で2巡できるようにする。後期の研修で、各学級での取組み方（1巡目・2巡目のやり方、板書の仕方、教室掲示等）を持ち寄ったり課題や困りを出し合ったりし、改善していく。</p> <p>③成長ノートは、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。主に行事や節目の時に、自分の取組を振り返り、付けた力を自覚できるようにしたり、次の目標を持たせたりする。目標に向け、自分の達成具合が分かるように、継続して書かせる。8月の研修で、気になる児童や変容の見られる児童の成長ノートを持ちより、「いつ、どんな内容で書かせたか、それをどう活用したか」など、意見交流し、後期の取組みにつなげていく。</p> <p>④価値語は、4月の研修で共通理解をし、各学級で実施する。8月の研修で教室掲示を持ちより、「どんな場面で生まれた価値語か、それを日常でどのように活用しているか」などについて意見交流し、後期の取組につなげていく。</p> <p>※（必要に応じて）朝の会観察週間（年度当初）に合わせて、学年部において、朝の会観察シートの視点をもとに、共通理解を図りながら改善を図る。状況に応じて後期は、指導教諭等により朝の会を中心とした学級の参観を依頼し、「朝の会観察シート」等により自己評価を行い、改善していくよう指導・助言を受ける。</p>
外部評価	学校評議員や指導主事等を年間2回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく

外国語活動・外国語科5点セット

校内研究 テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標	積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童を育む授業の推進
重点的取組	① 課題解決へ向けた授業づくり・互見授業の実施 ② 公立校への授業公開
達成指標	① 指導教諭による評価（4段階）が、1・2年目の教諭2.6以上、3年目以上の教諭2.9以上 ② 授業参観後のアンケートで、参観者の自校での活用率が6割以上
取組指標	① について <ul style="list-style-type: none"> ・4月の校内研究において、「Classroom English」、「4 R」、「外国語科・外国語活動指導のポイント」等、これまでの取組について共通理解を図る場を設ける。 ・5～7月の校内研究において、昨年度指導を受けた項目（「子どもの実態に合わせたねらいを提示するタイミング」、「漆塗りの授業の展開の仕方」、「C児への支援」等）について共通理解を図り、外国語部と学年部が連携しながら授業づくりを行う。 ・年間を通して、外国語部と5・6年部が連携し、教科書「ONE WORLD Smile」を使用した授業づくり（指導案作り、授業実施）を行う。また、外国語部と3・4年部が連携し、3・4年教材「Let's Try!」を使用した授業のブラッシュアップ（指導案作り、授業実施）を行う。1・2年についても、外国語部1・2年部が連携し、これまで作成した指導案のブラッシュアップ（指導案作り、授業実施）を行う。 ・5～7月に、①に係って、指導教諭・研究主任・外国語担当・学年部による互見授業を学年1名以上設定し、改善へつなげる。後期に、今年度赴任した教諭による授業公開を行う。 ・7月の外国語授業作りセミナーに向けて、外国語部が校内に向け『漆塗り』の授業展開の在り方（単元構成）「評価の在り方」に関する授業を公開し、共通理解を図る。 ② について <ul style="list-style-type: none"> ・外国語授業作りセミナー（7月28日）や外国語セミナー（11月2日）において、事前授業や当日授業を公開する。（指導主事等や中学校に声をかける。） ・年間2回程度他校からの視察日を設定し、積極的に視察を受け入れる。また、要請があれば、外部講師として出前授業を行う。
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事等を年間2回程度招聘し、進捗状況を確認及び評価していただく。（指導主事等の招聘は、カリマネや提案授業と連動する） ・11月2日（火）に開催の外国語セミナーにおいて、今年度も直山木綿子視学官を招聘し、本校の取組を評価していただく。

生活科・総合的な学習の時間 5点セット

校内研究 テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする 子どもの育成
重点目標	附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の達成
重点的 取組	①学級ごとに探究のサイクルを意識した単元計画（プラン）の作成・実施 ②「概念的な知識」の共通認識と各学級の学級評価規準作成 ③附属小学校のめざす生活科・総合的な学習の時間の資質・能力の見直し、外部への 発信 ④提案授業・互見授業の実施（1人1回以上） ⑤「めざす資質・能力」の達成が見取れる児童アンケートの作成、検討、実施、分析 （アンケート実施は6月と2月、3年生以上全学級）
取組指標	<ul style="list-style-type: none"> ・①については、年度初めの校内研究で単元作り等の研修を行なう。定期的に総合部・学年部で進捗具合のチェック、全体でその都度、成果と課題の交流を行い、おおまかな今後の授業展開を考える。 ・②については、附属小資質・能力一覧表を元に、各学級で単元の具体的な評価規準を作成し、校内研修でお互いに確認しチェック・修正を行う。 ・③については、半期に1度、通知表の評価の際に研修で見直しを行う。年度末に生活・総合部会を持ち、修正していく。ホームページ等で発信も行う。 ・④については、1人1回以上の生活科・総合的な学習の時間の提案授業を指導教諭の授業観察に位置付け、指導教諭・研究主任・総合担当・（学年部）で参観・事後研を行う。 ・⑤については、総合部を中心に作成しているアンケートを実施し経年比較が出来るようにする。アンケート実施後、担当で分析し授業改善等を検討する。
達成指標	<p>前期：「めざす資質・能力」を意識した授業の実施（通知表の評価と連動） 児童アンケートで肯定的な回答 75%以上（R2 年度達成指標 70%）</p> <p>後期：前期の分析をもとに「めざす資質・能力」を意識した授業の実施 児童アンケートで「整理・分析」場面で肯定的な回答 85%以上</p>
外部評価	年間3回程度指導主事等を招聘し進捗具合を見てもらう （指導主事招聘はカリマネや提案授業と連動していく）

県の重要課題を受けた授業研究5点セット

校内研究 テーマ	学びを目的・場面・状況と相互につなげ、活用できる知識・技能を習得しようとする子どもの育成
重点目標	県による「各教科の改善の重点」を具現化した各教科の授業の構築と授業公開
達成指標	① 令和3年度小中学校教育課程研究協議会（12月）にて、レポート提出及び本校作成の単元及び授業プランを、授業公開等を通じて発信 ② 指導教諭による評価の平均が3.0以上
重点的取組	①県による「各教科の改善の重点」の分析、また本校の課題及び具体的な取組を明確にし、それを具現化した授業づくりと授業公開を行う。 ②指導教諭による授業参観及び、指導教諭による指導・助言をもとに授業改善を行う。
取組指標	①県による「各教科の改善の重点」を受け、教科ごとに再度分析しなおし、本校における現状と課題、及び改善を図るための具体的な取り組みについて、各教科で再検討し完成させる。それをもとに、日常的に授業実践していくようにする。 ①研修日程の2回に1回の頻度で、各教科順番に事前研・公開授業・事後研を行っていく。 ①フォローアップ研修で公開する5教科（国語科・理科・生活科・図画工作科・外国語科）以外の教科（算数科・社会科・音楽科・家庭科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動）について、準セミナー扱いとして県下の公立学校へ周知・公開していく。 ②授業公開後は全体で事後検討会（指定討論形式）を行うとともに、指導教諭は「授業観察シート」に沿って評価を行う。指導教諭による指導・助言をもとに授業改善に生かしていく。
外部評価	学校評議員や指導主事等を年間2回程度招聘し、状況を確認及び評価していただく